

例会要旨

2010年10月28日
於 筑波大学東京キャンパス

外国でのフィールドワークにおける IT 利活用の事例

堤 純 (愛媛大学法文学部)

発表者は、オーストラリアのメルボルンとシドニーにおいて海外フィールドワークを2002年以降に毎年行っている。オーストラリア調査の直接の契機は2002年に科学研究費を獲得したことであるが、それ以降も、文部科学省の海外派遣プログラムや学内の在外研究プロジェクト、さらにはオーストラリア現地の研究助成などを活用して、機会を見つけては頻繁に渡豪していることを紹介した。ただ機会を待つのではなく、様々なプロジェクトに積極的に応募することの必要性についても紹介した。

現地で最も重視していることは、インターネット環境の確保である。現地で入手可能なプリペイドのワイヤレス接続モデムを購入し、研究資料収集のほか現地の生活情報の入手、日本のニュース閲覧等に使うのみならず、現地の研究者や訪問予定先との頻繁な連絡（とくにメール）に活用していることを紹介した。さらに、現地の携帯電話も活用して、調査対象者とは滞在期間中にできるだけ頻繁に連絡を取り合える環境を作ることの重要性を説明した。

また、現地での滞在先選定に際しての工夫も紹介した。外国調査は短くても1週間、長ければ1か月以上同じ場所に滞在することもあるため、狭く、薄暗いホテルの1室では集中力の持続が困難である。そこで、外国調査時の宿舎には、できるだけキッチン・家具付きのアパートタイプを借りて、いわば「研究のベースキャンプ」作りに努めることで作業効率が向上することを紹介した。